

女医における保育の問題

東京女子医科大学 眼科学教室

小 暮 美 津 子

同 薬理学教室

ノ 野 本 照 子

同 元循環器外科学教室

ハヤシ 林 久 恵

(受付 平成2年1月29日)

はじめに

医学の分野では早くより、医師となる平等な機会が与えられているため、他の職業に較べて男女格差は少ないと言われている。しかし実体はきびしく、大学でスタッフとして活躍したり、学会で重んじられている女医の数は意外に少ない。その理由は幾つか挙げられるが、大きな障害は結婚に伴う家事、育児である^{1)~3)}。なかでも育児に問題を抱えている人は多く、これを転機に志半ばにして止むを得ず大学を去って行く卒業生は後をたない。これは本学にとって由々しい問題である。

そこで、その実態を把握する目的でアンケート調査を行った。

方 法

調査の対象は、東京女子医大に何らかの形で席をおき、学齢期前の子供を持った本学卒業生とした。アンケートは表1の内容に沿って昭和63年2月1日~2月末日までの間に実施した。アンケートは学内にある卒業生の同窓会(至誠会学内支部)の各部署における責任者を通して該当者79名に配布し、その全員から回答を得た。

結 果

1. 回答者の構成

アンケートの回答者は79名で、その内訳は常勤68名(86.1%)、非常勤11名(13.9%)で、年齢はそれぞれ 39.98 ± 3.84 歳(27~47歳)、 35.91 ± 4.71 歳(29~45歳)であった。

回答者の専攻を基礎・臨床医学に2大別すると、その殆んどが臨床で77名(97.5%)、基礎が1名、不明が1名あった。

その所属部署は、多い順に内科20名、小児科16名、眼科10名、耳鼻科8名、産婦人科、皮膚科各6名、放射線科5名、外科3名、整形外科、精神科、麻酔科、生理学、不明各1名であった。

大学での職名は、常勤では助手が48名、講師、医療練士、研修医が各4名、助教授2名、出張助手、助手待遇、回答なし(以下不明)が各2名であった。

非常勤の資格は、出張助手4名、非常勤助手3名、非常勤講師1名、研究生、見学生、不明が各1名であった。

2. 回答者の現住所および通勤時間

常勤医の現住所は、都内60名(75.9%)、都下3名、埼玉県2名、神奈川、千葉、栃木の各県が1名ずつで、都内では大学所在地の新宿区が最も多く20名で、以下文京区8名、足立区5名、練馬区、

Mitsuko KOGURE, Teruko NOMOTO* and Hisae HAYASHI** [Department of Ophthalmology and * Department of Pharmacology Tokyo Women's Medical College and** Sakakibara Memorial Clinic] : Problem of child care in women physicians

表1 アンケート用紙

質問に答えて該当項目に○印を、()内には答えを書き入れて下さい。

問1. 貴方の現住所は 例…新宿区河田町
()

問2. 病院までの通勤時間は
()分

問3. 貴方の現年齢は
()歳

問4. 貴方は学齢前のお子さんを何人お持ちですか。
()人

問5. お子さんの現年齢をおうかがいします。
大きい順にお書き下さい。

生 年 月 日	年 齢	性 別
1) 昭和()年()月生 () 歳 ()月()日 ()	() 歳 ()月()日 ()	()
2) 昭和()年()月生 () 歳 ()月()日 ()	() 歳 ()月()日 ()	()
3) 昭和()年()月生 () 歳 ()月()日 ()	() 歳 ()月()日 ()	()
4) 昭和()年()月生 () 歳 ()月()日 ()	() 歳 ()月()日 ()	()
5) 昭和()年()月生 () 歳 ()月()日 ()	() 歳 ()月()日 ()	()

問6. 貴方の御専門は
臨床()科
基礎()教室
その他()

問7. 勤務状況について、該当する項目に○印をつけて下さい。大学だけでなく、貴教室の関連病院や出張病院で、ローテーターとしてフルタイムで勤務している場合は、常勤とみなします。

1) 常勤 2) 非常勤 { 定期的に大学にきている
大学にくるのは不規則

問8. 問7で常勤と答えた方にうかがいます。

1) 出勤時間 早い時()時
(家を出る時間) 遅い時()時
2) 帰宅時間 早い時()時
遅い時()時
3) 職名についてうかがいます。該当する項目に○印をつけて下さい。
大学院生 研修医 助手 講師 助教授
その他()

問9. 非常勤の方で、定期的に大学にきている方にうかがいます。

1) 週 ()回
2) 1日()時間 ()時~()時
3) 目的()
4) 身分について()
5) 職務内容…何をどこまでしているかを詳しく書いて下さい。

()

問10. 非常勤の方で不規則に大学にきている方にうかがいます。

1) 大学には1カ月平均して()回きている。
1日()時間
2) 目的()

3) 身分()
4) 貴方は大学で何をしていますか。

()
問11. 非常勤の方全員に常勤できない理由をおうかがいします。
()

問12. 非常勤の方全員にうかがいます。大学に来ない日、何をされていますか。該当する項目に○印をつけて下さい。

1) 育児に専念し医業は行っていない。
2) 自宅開業
自営
手伝い(夫、父、母、その他)
3) その他のアルバイトをしている。

問13. 問12で1)以外と答えた方に勤務状況をうかがいます。

週 ()回
1日()時間 ()時~()時

問14. 問12で3)と答えた方にうかがいます。
アルバイト先は

1) 自分でできた
2) 知人、友人の紹介
3) 教室のあっせん
4) その他()

問15. 貴方が働いている間、子供さんの世話は、どなたがみておられますか。該当する項目すべてに○印をつけて下さい。

親	父方	父	お手伝いさん	同居
	母方	母		通い
夫	兄弟	父	ベビーシッター	私立
	姉妹	母		
				保育園
				その他()
				保育園以外の施設
				その他()

問16. 貴方の子供さんの1日の平均的なスケジュールについておうかがいします。どこで誰が面倒をみているかを1人1人について詳しく書いて下さい。

子供の年齢	性	AM		PM	
		6:00	12:00	6:00	11:00

問17. 貴方は宿直をされますか。
1) している

- 2) していない(理由)
- 問18. 問17で1)と答えた方にうかがいます。宿直は
- 1) 職場の他の医師と対等に行っている。
 - 2) 不定期の当直はしない(例えば重症当直は他の医師にかわってもらっている)。
 - 3) 職場の他の医師より回数を減らしてもらっている。
 - 4) 当直など他のデューティを行い、減らしてもらっている。
 - 5) 宿直は月平均()回
 - 6) 宿直の時、お子さんはどのようにしてどなたに頼みますか。詳しく書いて下さい。いつも定まった方をお願いできるとは限らないと思います。その点についてもおうかがいします。
- ()

- 問19. 問17で2)と答えた方にうかがいます。夜間保育または乳児院などの施設に子供が預けられれば
- 1) 男性医師と対等に仕事し、当直もする。
 - 2) 子供が預けられても男性医師と同等に仕事できない。

- 問20. 貴方は至誠会保育園に子供さんを預けていますか。
- 1) あずけていない
 - 2) あずけている
- ()人 年齢・性 1.()
- 2.()
- 3.()
- 4.()

- 問21. 貴方は至誠会保育園の延長保育を希望しますか。
- 1) 希望する
 - 2) 希望しない(理由)

- 問22. 問20で1)と答えた方にその理由をうかがいます。該当項目に○印をつけて下さい。
- 1) 定員オーバーであずかってもらえなかった。
 - 2) 家に面倒をみってくれる人がいる。
 - 3) 住いが遠くて不便。
 - 4) 保育の時間帯が短い。
 - 5) その他()

- 問23. 子供さんが病気になった時、どうされていますか。○印で答えて下さい。
- 1) 病気の軽重にかかわらず欠勤する。
 - 2) よっぽどのがない限り欠勤しない。

- 問24. 問23で2)と答えた方にうかがいます。病気の子供さんの処置とどなたに頼むか具体的に書いて下さい。
- ()

- 問25. 母子ともに非常事態に備えて、日頃どのような対策を考えておいでですか。例えば母親に急用があり子供さんの迎えに行けなくなったり、勤務中に子供さんの具合が悪くなって連絡を受けた時など。
- ()

- 問26. 貴方は、子供の保育にどれ位の費用をかけています

か。二重、三重の保育をされている方もおられると思います。1か月平均の費用をできるだけ詳しく項目別に分けて、年齢の大きい順に書いて下さい。

子供の年齢	性	保 育 費

- 問27. 貴方は院内保育を希望しますか。
- 1) 希望する
 - 2) 希望しない(理由)
- 問28. 乳児院へ長期に預けられるとすれば、貴方は
- 1) 預ける
 - 2) 預げたくない
 - 3) 必要な時だけ預けたい
- 問29. 貴方のこれまでの経験をもとに、院内保育の在り方、院内保育に望むこと、苦勞されたことなど具体的に挙げて下さい。今後の参考にしたいと存じます。

足立区が4名、渋谷区3名その他であった。非常勤は都内8名(71.7%)、埼玉県2名、千葉県1名で、都内ではやはり新宿区居住者が最も多く4名、次いで文京区、世田谷区が各2名の順であった。通勤に要する時間は常勤の平均が41.6±25.6分(3~120分)、非常勤が47.1±26.5分(5~90分)であった。

3. 回答者の子供の数(図1)

子供の数は、常勤が1.5±0.6人(1~4名)、非常勤が2.0±0.6人(1~3名)で、その分布をみると、前者は子供1人が55.9%で最も多く、後者は子供2名が63.6%で最も多かった。

このうち学齢期前の子供の数は常勤1.26±0.58人(1~3人)、非常勤1.54±0.98人(1~3人)であった。

4. 常勤医の出勤時間および帰宅時間

図2に常勤医の病院に到着する時間を示した。60%近くが、朝8時半より以前に病院に出勤し、60%近くが夜8時過ぎまで大学に残って仕事をしていることが判った。

5. 常勤医の宿直について(表2)

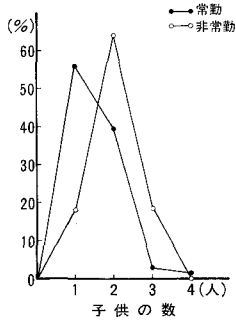


図1 回答者の子供の数

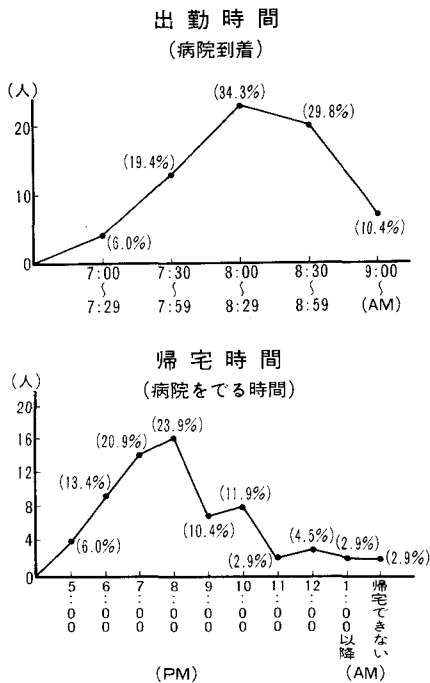


図2 回答者の出勤時間（早い時）と帰宅時間（遅い時）

宿直をしているものが35名あり、全員、「職場の他の医師と平等に行っている」と回答していた。宿直をしていない14名中2名は、産後の宿直免除期間（1年）内のもので、残りの半数は「夜間保育などの施設に子供を預けることができれば、他の医師と対等に仕事し、当直もしたい」と答え、他の半数は「子供を預けても対等に仕事はできない」と答えている。

1カ月の宿直回数は、宿直をしている35名中27名から得られた。各科の事情によって宿直回数に

表2 常勤医の宿直について

している	35名 (51.5%)
していない	14名 (20.6%)
義務がない	19名 (27.9%)

は差があるが、1カ月平均は3.4±1.4回で、最も少ないのは4カ月に1回、最も多かったのは月6回であった。

6. 非常勤勤務医の大学での勤務状況

常勤でない卒業生は、どれ位の頻度で大学に来ているかを調べた。回答者は11名中10名で週1回が最も多く60%、次いで2回、4回が各2名ずつであった。

大学での勤務時間は1日8時間が最も長く4名、次いで4時間が2名、ほかに7時間、6時間、3時間、不明がそれぞれ1名ずつであった。

大学に来る目的は、10名中5名が外来診療、3名は研究と外来診療、研究のみの目的が2名あった。若い年齢層のものほど研究をかねて大学に来る傾向が強く、少し年齢が高くなると見学生の形をとっていた。

7. 非常勤勤務医の大学以外での過ごし方

アルバイトが9名で、2名が自宅で開業していた。自宅開業またはアルバイト先での勤務時間は1日8～9時間が4人、7時間が2名、5時間が1名、3時間が2名、不明が2名いた。自宅開業も毎日ではなく、週5回1日8～9時間が1名、週2回1日7時間が1名で、前者は自営、後者は医師である夫の手伝いであった。

大学とアルバイトまたは開業で、週どれ位医業に携わっているかを調べると、11名中4名36.4%が毎日、次いで5日が3名27.4%、4日、3日、2日、不明がそれぞれ1名ずついた。両方を合わせて毎日8～9時間働いているのは1名のみで、他は家事、育児に時間をさいていた。

アルバイト先は教室の斡旋が6名、知人の紹介が2名、自分でさがしたと回答したのが1名であった。

8. 非常勤になった理由

非常勤になった理由を表3に示した。1人が複

表3 非常勤勤務医になった理由

育児のため	4名 (36.4%)
宿直ができない	4名 (36.4%)
研究を続けるため	2名 (18.2%)
時間に余裕がない	2名 (18.2%)
仕事がおそくまでかかる	2名 (18.2%)
開業するため	2名 (18.2%)
自分の健康状態がすぐれない	1名 (9.1%)

表4 勤務中に子供の世話をしてくれる人

	常勤医 68名	非常勤医 11名
1人または1箇所	13名(3名) 19.1%	7名(2名) 63.6%
2人または2箇所	27名(21名) 39.7%	2名(2名) 18.2%
3人または3箇所	13名(9名) 19.1%	2名(2名) 18.2%
4人または4箇所	9名(7名) 13.2%	
5人または5箇所	4名(3名) 5.9%	
不明	2名 3.0%	

()内は集団保育をうけている人の数、常勤の方が非常勤よりも多勢の人の手助けをうけている。

数の回答をしているが、最も多い理由には育児のためと、常勤医につきものの宿直ができないためを各4名が挙げている。1名は自分の健康状態のすぐれないのを理由として挙げている。

9. 勤務中に子供の世話をしてくれる人

勤務中に育児を代行してもらう人の数を調べ表4に示した。このうち保育園や幼稚園などで集団保育をうけている子供を持つ母親は常勤43名(63.2%)、非常勤6名(54.5%)で、()内にその数を示した。常勤の方が非常勤よりも勤務時間は長く、仕事の終るのも不規則なため、多勢の人に育児を分担してもらっていた。

集団保育以外の育児代行者を表5に示した。常勤では実家の両親が多く、夫の分担も大きい。非常勤になるとその割合は減り、婚家先の両親に頼むようになる傾向がみられた。身内以外では、常勤で家事も助けてもらえるお手伝いさんが、非常勤には育児が主なベビーシッターの多いのが目立った。

10. 子供が病気になった時

子供が健康なうちはまだ良いが、ひとたび病気になると、仕事を持つ母親は病児をかかえてパニックに陥る。そこで病気になった時どうしてい

表5 集団保育以外に面倒をみてくれる人

	常勤(%)	非常勤(%)
実家の親	22名(48.9)	1名(9.1)
夫	12名(26.7)	0(0)
婚家先の親	7名(15.6)	2名(18.2)
妹	5名(11.1)	0(0)
お手伝い	18名(40.0)	2名(18.2)
ベビーシッター	10名(22.2)	4名(36.4)
知人の家	6名(13.3)	1名(9.1)

常勤医は実家の両親、非常勤は婚家先の親に頼む傾向がみられる。

表6 子供が病気になった時

	常勤(68名)	非常勤(11名)
欠勤する	1名(1.5%)	2名(18.2%)
欠勤しない	62名(91.1%)	9名(81.8%)
回答なし	5名(7.4%)	0

病児を頼む人	常勤(67名)	非常勤(9名)
実家の親	38(56.7%)	2(22.2%)
婚家先の親	7(10.4%)	1(11.1%)
夫	7(10.4%)	1(11.1%)
妹	1(1.5%)	
ベビーシッター	12(17.9%)	2(22.2%)
お手伝い	12(17.9%)	2(22.2%)
知人の家	5(7.5%)	1(11.1%)
病児保育室または小児病棟	4(6.0%)	
二次保育の家	3(4.5%)	
必要なし	2(3.0%)	

殆んど欠勤しないで、子供は健康の時よりも身内に預かってもらうケースが増えている。

るかを質問した。答は複雑で得られた(表6)。

常勤、非常勤ともに欠勤しないが大部分であったが、子供が病気の時は普段よりも身内のもとに預けるケースが増えていた。手のすいている肉親をさがして頼みこむという苦心のあとがみられた。どうしても都合のつかない時は小児病棟で預かってもらうという回答もあった。

多くは人に頼んで小児科で子供を診てもらい、治療を受けたあと、自宅へ連れ帰ってもらい、引き続き面倒をみてもらうという方法をとっていた。出張先の病院に病児保育室があるので、とても助かっているという回答も得られた。病児の世話を頼む人の数も常勤の方が非常勤よりも多く

なっていた。

11. 保育に要する費用

集団保育も含めて、保育を分担してもらう人の数が増えるにつれて、保育に要する人件費は嵩んでくる。そこで子供1人当りに要する1カ月平均の保育費を調べた。回答は常勤59名、非常勤10名から得られた。保育に要する費用は、常勤の方が非常勤よりも多く、かなりの高額(最高25万円/月)にのぼっていた(表7)。

12. 至誠会保育園について

至誠会保育園は女子医大の同窓会である至誠会が運営している。学齢期前の子供を持つ卒業生の79名中14名(17.7%)がその時点で子供を預けて

表7 保育に要する費用

1) 子供1人当りの保育費用		
常勤	77,859±58,802円/月	(59名)
	(0~25万円/月)	
非常勤	42,830±33,347円/月	(10名)
	(0~12万円/月)	
2) 子供1人当りの保育費の分布		
保育費/月	常勤(59名)	非常勤(10名)
0	1名(1.7%)	1名(10%)
1万円以上5万円台	28名(47.5%)	6名(60%)
6万円以上10万円台	15名(25.4%)	2名(20%)
11万円以上15万円台	9名(15.3%)	1名(10%)
16万円以上20万円台	4名(6.8%)	
21万円以上	2名(3.4%)	

表8 至誠会保育園を利用できない理由

	常勤(61名)	非常勤(10名)
住いが遠くて不便	24名(39.3%)	5名(50%)
保育の時間帯が短い	18名(29.5%)	1名(10%)
家に面倒をみる人がいる	9名(14.8%)	1名(10%)
定員オーバーであずかってもらえなかった	5名(8.2%)	1名(10%)
卒園後である	5名(8.2%)	1名(10%)
新宿区外でことわられた	2名(3.2%)	
病気の時あずかってくれない	1名(1.6%)	
公立保育園に入れた	1名(1.6%)	1名(10%)
今度あずかってもらう	1名(1.6%)	
回答なし	7名	1名

いた。かつて預けていたことのある人を入れると20名(25.3%)であった。

至誠会保育園を利用できない理由を表8にまとめた。常勤、非常勤ともに理由として多かったのは住いが遠い、保育の時間帯が短い、家に面倒をみてくれる人がいるなどであった。

至誠会保育園の延長保育について全員に質問した。65.8%の人が延長保育を希望していたが、回答欄が空白のままであったものも多かった(表9)。

13. 院内保育について

次に大学病院内に夜間も子供を預かる保育施設のできることを希望するかどうかを質問した(表10)。

大学病院内に保育施設のできることを希望するものは79.8%で、希望者は常勤の方が非常勤より多かった。

希望しないのが13.9%いたが、その理由として常勤の7名中5名は自宅が病院から遠い、1名は夜中まで仕事の終わらないことがあるので保育の時間帯を気にし、1名は託児所的になり幼稚園のような行事が組み込まれないのではないかと心配していた。

表9 至誠会保育園の利用状況

- 1) あずけている
 常勤 12名(17.7%) 子供 17名
 非常勤 2名(18.2%) " 5名
- 2) 延長保育

		常勤(%)	非常勤(%)
希望する	52(65.8)	46(67.7)	6(54.5)
希望しない	6(7.6)	3(4.4)	3(27.3)
回答なし	21(26.6)	19(27.9)	2(18.2)
計	79	68(86.1)	11(13.9)

表10 院内保育の希望状況

		常勤(%)	非常勤(%)
希望する	63(79.8)	57(83.8)	6(54.5)
希望しない	11(13.9)	7(10.3)	4(36.4)
回答なし	5(6.3)	4(5.9)	1(9.1)
計	79	68(86.9)	11(13.9)

非常勤では希望しない4名中2名から、常勤の時であれば希望したという切実な声が聞かれ、後輩のために早く実現してほしいと結んでいた。他には住いが遠い、家に世話してくれる人がいるが各1名ずつあった。

考 察

近年、全医学生に占める女子学生の数は年々増加し、アメリカでは30%以上、カナダではすでに40%を越えている。わが国でも医学部入学者の中で女子の占める割合は昭和53年に13%であったのが、62年には23.6%に達し今後も増加が予測され⁴⁵⁾、医学の分野でも従来の男性優位の考えは変わりつつある趨勢にある。この機会に女医は、社会のニーズに十分応じられるような環境を整え、実力を養い、社会的な信頼を高めて行かなければならない。

一方、「男は仕事、女は家庭」という日本古来の風習は依然として根強く、総理府の調査(1987年)によると、20歳以上の男女5,000人のうち43.1%がこれを支持し、この役割分担指向は女性よりも男性の側に強いことが示されている。

社会の縮図である家庭内にも、この傾向は反映され、子供を持つ女医は、その世話を実家に委ねるケースが多く、仕事を続けるためには、例え遠くても通勤可能な圏内であればそうせざるを得ないという回答もあった。常勤にくらべると非常勤では、家事、育児に費す時間も増えてくるので、子供を夫の両親のもとで育てる比率が増え、同時に夫の育児負担も減る傾向がみられた。

子供が病気になった時、余程のことがない限り欠勤しないのが常勤、非常勤ともに大部分を占め、これは本学卒業生の医師としての自覚、責任感の強いことのあらわれである。しかし、病児保育を扱う施設はごく少なく、頼る先は実家で、実家の両親は最も良き理解者、協力者で、結婚後も物心両面で絶えることなく援助を受けざるを得ないのが本学卒業生の実態として把握された。

しかし、両親が健在で、少なくとも通勤圏内に住いのある場合はまだ良いが、そうでない場合の状況は更にきびしく、夫の理解と協力の上で成り立っている様子の方がうかがえるが、それにも限界が

あり、幾重にもわたる保育態勢を常に整えておく才覚が必要で、そのための精神的負担は計り知れず、かかる費用も高い額におよんでいることが今回の調査で明らかにされた。

常勤から非常勤へ変った動機をみると、育児に伴う雑事が大部分を占め、子供の数が増えたり、面倒をみてもらっている親が年取り、大病を患ったりすると、これまでの努力や苦労も限度を越え、やめる時期を悟るようになるという声も聞かれた。まさに自分の医師としての能力や適正を見極める余裕もなく、家庭内の事情に押し流されて将来を定めざるを得ない実状がうかがわれ、今更ながら残念に思う。

昭和61年4月、男女雇用機会均等法が施行されて以来、女性の就業機会も増え、女性の社会への進出にはめざましいものがある。それに応じて企業内に保育所を設けて働く女性を支援する企業も増えてきている。財団法人「児童手当協会」の調べによると、企業内保育施設は、病院、縫製、食品工業など女性の多い職場を中心に全国で約2,180カ所におよび、職種によっては、夜間・延長保育も実施されているとのことである。出張先の病院で、この恩恵を受けている卒業生もあり、医師という仕事を持つ女性を育成する大学に保育施設のないことに疑問が寄せられている。

至誠会では、以前から将来性のある女医が仕事を全うするのを側面から援助する目的で保育園を設け運営している。しかし社会福祉法人の形態をとったため、企業内保育のように延長保育や夜間保育を行うことは法規上むずかしく、園児も原則として新宿区に住いのあるものに限られている。そのため日中預けたとしても二重、三重の保育が必要で、区外居住者には複雑な手続きを必要とし、病気をした時は預かってもらえない。至誠会保育園の利用者は、これらの条件を満足するものに限られ、今回のアンケートでは20%足らずであった。

しかし、院内保育を希望する者の数は多く、80%近くにおよび、なかでも常勤医は一部の遠くからの通勤者を除いた83.8%が1日も早い実現を強く望んでいた。

一般にアンケート調査では、心理的にこんな回

答をしたら恥ずかしいと言った気持ちが働くため、なかなか本音が聞けないのではないかと当初は心配したが、結果は全くのとり越し苦労であった。それだけ育児は第一線で活躍を望む女医にとって切実な問題であることを改めて認識させられた。

このアンケートの大きな収穫は、多くの卒業生が、育児に問題を抱えながら、男性に伍して常勤として活躍していることを知り得たことで、将来、その経験を生かして、より豊かな女医として成長してほしいと願って筆をおく。

終りに内田幸男教授の御校閲に深謝申し上げます。

文 献

- 1) **Scadron A, Witte MH, Axelrod M et al:** Attitudes toward women physicians in medical academia. JAMA 247: 2803-2807, 1982
- 2) **Dimond EG:** Women in medicine. 1. The future of women physicians. JAMA 249: 207-208, 1983
- 3) **Heins M:** Women in medicine. II. Medicine and motherhood. JAMA 249: 209-210, 1983
- 4) 総理府統計局編: 第30回日本統計年鑑, p592, 1980
- 5) 総理府統計局編: 第38回日本統計年鑑, p659, 1988